

新刊紹介

藤原与一先生著

「理の国語教育と情の国語教育」

(昭和45・11、新光閣、A5判168ページ)

— 表現と理解とでの —

- 一 「理と情」と「明せきと雅じゅん」
- 二 明せき
- 三 表現の明せき
- 四 雅じゅん
- 五 表現の雅じゅん
- 六 明せき即雅じゅん
- 七 日本語

第二章 思考力を高める国語教育

- 一 「人間の力」の教育
- 二 新鮮な読書
- 三 思考力のもと
- 四 思考力のさまたげになるもの——ことばに対する誤解——
- 五 思考力を高める
- 六 思考力とは——思考力の教育のために——
- 七 思考力を高める国語教育——理の国語教育の精密な実践——
- 八 論理的思考の国語教育

第三章 心情を養う国語教育

- 一 高い深い思考力と豊かな心情と
- 二 心情というもの
- 三 心情教育
- 四 「感動」と「想像力」との背後にあるべきもの
- 五 感動 感動教育
- 六 想像力 想像力教育
- 七 心情をささえる理
- 八 心情教育の方向
- 九 「表現」教育への努力

むすび——徹底的に書かせる指導——

付録 I 国語教育上での「新鮮な読書」

II 自分は一教員として相手を幸福にし

藤原与一先生は、すでに、「これからの国語」(昭和28・6・5、角川新書)、「毎日の国語教育」(昭和30・4・15、福村書店)「国語教育の技術と精神」(昭和40・7、新光閣)を著わされ、的確なことばをみつめおさえていく国語教育の方法と、真実・誠実をつくす愛情豊かな国語教育のありようを、求めつづけておられる。本書は、それらをもまえて、さらに大局的な立場から、国語教育の方法と目的とを、究明されようとしたものである。

その内容・構成を、目次によってみると、つぎのようになっている。

前編

はじめ

第一章 理の国語教育と情の国語教育——総

括編——

第二章 理の国語教育

- 一 一般論
 - 二 情と理
 - 三 理と情
 - 四 情理をつくして
 - 五 理と情との基——ことば——
 - 六 普通の国語教育法
- 一 理の国語教育の側面
- 二 話すことの教育に関して
- 三 書くことの教育に関して
- 四 読むことの教育に関して
- 五 聞くことの教育に関して
- 六 まとめ

第三章 情の国語教育

- 一 理にしたがい情にしたがう
 - 二 話すこととの指導に関して
 - 三 書くこととの指導に関して
 - 四 読むこととの指導に関して
 - 五 聞くこととの指導に関して
- 六 教材研究
- 七 評価

後編

はじめに

第一章 明せき(明晰)と雅じゅん(雅醇)

つつあるだろうか

Ⅱ理想の教師像

あとがき

前編では国語教育の方法原理が、後編では国語教育の目的が、いずれも、「理と情」の面から明らかにされている。これまでの論を、「理と情」という二つの面からとらえなおされることによって、藤原先生の国語教育

論は、いっそう、明解かつ体系的になったと思われる。とくに、後編第二章「思考力を高める国語教育」では、国語科における思考力が、柔軟にとらえられており、独自の思考力論が展開されている。

ちなみに、付録として収録された三編のいずれにも、深く心をうたれる。日々の研究・実践への心構えを新たにさせられるのである。

(真砂茂美)